



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.22
都市環境と六甲山/
澤木 昌典
2005年1月発行



六甲山から望む市街地

第22回テーマ： 都市環境と六甲山

講演内容

- 都市と自然から見る六甲山
- 郊外居住と自然から見る六甲山
- 地球環境時代から見る六甲山

実施日：平成17年1月15日(土)
午後1時～3時30分
場 所：六甲山YMCA
里見ホール



講師：澤木 昌典さん

プロフィール

1957年生まれ。1982年大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻博士前期課程修了。1992年兵庫県立人と自然の博物館研究員・兵庫県立大学助手。2004年9月大阪大学大学院教授。

瞬く間に銀世界になった

この日の六甲山には、大晦日に降った雪がまだ残っていました。記念碑台周辺の散策路には10センチくらいの霜柱やつららなど、市街地では見られない光景を目に、冬本番を実感しました。

23名の熱心な参加者が里見ホールに集まりました。今や恒例となった暖炉で焼いた焼き芋を片手に、ざっくばらんにお話を聴きました。講演が始まるにしたがい雪がどんどん降り積もり、マイカーで参加された2名の方は、下山が危険なので途中で帰られました。



どんどん降り積もる雪

地震の積み重ねでつくられた六甲山地

澤木さんは、都市環境デザイン学がご専門で、都市計画やまちづくりなどを研究されています。今回は、都市から六甲山を見つめるという切り口でお話いただきました。今年には阪神大震災10周年で、澤木さんが撮影されたスライドを見ながら震災の様子を振り返りました。神戸にはたくさんの活断層がある、六甲山は100万年以上をかけて地殻変動を繰り返し、形成された山であるとの解説に、大自然の脅威を痛感しました。

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
後援：兵庫県神戸県民局 兵庫県立人と自然の博物館
灘区役所 神戸市教育委員会

恵まれた環境を持つ阪神間の居住地

阪神間は瀬戸内海に面し、六甲山の南斜面に位置する郊外居住地の先進地域です。明治半ば以降、快適な環境を求めて都市から郊外へと人が集まり、郊外化の進行と同時に様々な環境問題も発生してきました。

コンパクトタウンを目指す神戸

コンパクトな生活圏の集まりで市街地を構成し、周囲に自然環境を保全していく形が神戸のあり方と澤木さんは話されました。澤木さんからの冷静な投げかけには、地球環境から見つめる100万年のあり方、私たちのあり方について啓示を受けた1日でした。

詳しくは、1・2ページをお読みください。

参加の感想 田中 有司さん

山の鼓動、木々の息づきを感じずような静寂の中、凍てついた山の小道を歩いたとき、遠い子どもの頃のことを思い出しました。

一方教室では、澤木先生の話を一言も聞き漏らしたくないと伺い、皆さんの熱心な様子、好を同じくする人達の集いの素晴らしさに感激しました。

そして、しんと降り積る雪、ほかほか焼きいも、暖炉で燃える薪の香がこの一日の新しい記憶として残っています。



【助成金をいただいている機関】

灘区「地域力を高める」事業、ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金、コベルコ自然環境保全基金